

「浅地中ピット処分の安全評価手法（案）」
公衆審査ご意見への対応

2012. 12. 4

一般社団法人日本原子力学会
標準委員会

No. 1
田中忠夫様
<p><ご意見></p> <p>該当箇所：附属書 L「L.3 評価対象とする経路」で参考として示している「土地利用シナリオの線量評価例」について</p> <p>-----</p> <p>六カ所埋設センター事業許可申請では、管理期間終了後の評価における発生頻度が小さいと考えられる事象として「廃棄物埋設地における地下数階を有する建物の建設工事」を対象としている。</p> <p>附属書 L では、「b)-2) 処分場上部の土地利用」において、隆起・侵食により 24,000 年以降に埋設施設が地表へ接近した場合を想定した建設についての評価例が示されている。これも 1 つの評価例ではあろうが、実際の申請で行われた評価事例を優先的に示すべきではないか。</p>
<p><回答></p> <p>原案どおりとします。</p> <p>実際の申請で行われた評価は、安全審査の基本的考え方が改訂される前のもので、「地下数階を有する建物の建設工事」は、改訂後の安全審査の基本的考え方で評価対象と位置づけられた「一般的な生活様式の周辺住民」とは言えない、発生頻度が小さいと考えられる事象として評価されています。</p> <p>このシナリオは改訂後の安全審査の基本的考え方に照らして、本標準ではやや例外的な変動シナリオと位置づけており（179 ページの下から 2 つめのパラグラフ（解説 5.2.4）参照）、附属書 L では、既存の評価例にはない、一般的な生活様式の周辺住民を対象とした変動シナリオを優先して例示しています。</p> <p>実際の申請で行われた評価「廃棄物埋設地における地下数階を有する建物の建設工事」も変動シナリオの 1 つと考えています。</p>

「浅地中ピット処分の安全評価手法（案）」
公衆審査ご意見への対応

2012. 12. 4

一般社団法人日本原子力学会
標準委員会

No. 2
三木崇史様
<ご意見> 該当箇所：p. 57 附属書 D ----- D. 3. 2d) パラメータ Mf の中で、淡水魚類の年間摂取量を 30kg/a と設定していますが、この値は海水魚類の設定値（25kg/a）より大きく、過度に保守的な値と考えられます。AESJ-SC-F012:2008 “日本原子力学会標準 余裕深度処分の安全評価手法：2008” では「淡水産物については、地表水系の規模に応じて、処分場ごとに現在の状況が継続するものとし、個別に設定することとした。」としているので、本標準でも同様の記載が適切と思いません。
<回答> 拝承。 数値を削除して以下の記述とします。 ----- 変更前：30（原安委濃度上限値 ⁽¹⁷⁾ ） 変更後：－（地表水系の規模に応じて処分場ごとに個別に設定する。） 参考文献（17） 削除
No. 3
三木崇史様
<ご意見> 該当箇所：p. 136 附属書 L ----- 表 L. 3 において、出典を JAEA-Review 2006-011 としているものの中で、実際には別の文献を出典としていると思われる値があります。例えば、Ac から Np の難透水性覆土や岩の値は IAEA TRS No. 364 の砂の値を用いていると思われます。（本標準案の p. 167 より） また、岩の値の中で Ni 及び I の値が出典とされている六ヶ所 2 号申請書の値と異なります。
<回答> 拝承。

誤記でしたので、以下の通り修正します。

Ra に対する難透水性覆土及び岩の分配係数出典

変更前：JAEA-Review 2006-011

変更後：ORNL-5786(soil)

Ac, Th, Pa, U, Np に対する難透水性覆土及び岩の分配係数出典

変更前：JAEA-Review 2006-011

変更後：IAEA TRS No. 364(砂)

Ni に対する岩の分配係数設定値

変更前：0.05

変更後：0.5

Tc に対するモルタル／コンクリートの分配係数設定値

変更前： 3×10^{-4}

変更後：0.0003

Tc に対する岩の分配係数設定値

変更前： 5×10^{-4}

変更後：0.0005

I に対する岩の分配係数設定値

変更前：0.1

変更後：0.0001

Cm に対する岩の分配係数設定値

変更前：1

変更後：5